

ジュニア防災検定に挑戦

防災をテーマにした問題に
取り組む児童たち―広川町



全国初 広川町内3小学校一斉に

子供たちの防災意識を高めようと、「稲むらの火」の故事で知られる広川町の

小学校で25日、「ジュニア防災検定」が行われた。地震時の避難方法などの問題が出され、児童たちは真剣な表情で取り組んだ。町内の全3校が参加。自治体の小学校が一斉に受検するの

は全国で初めてという。ジュニア防災検定は、防災検定協会が昨年12月から全国で実施している。同町は、安政元（1854）年11月の安政南海地震の際、濱口梧陵が稲むらに火をつけて住民を高台に避難させた故事の舞台。地震から今年で160年を迎えたことから、自然災害への理解を深めるのを目的に実施された。

同町上中野の南広小学校では、児童約40人が初級コースにチャレンジ。自宅で緊急地震速報を聞いたときの適切な行動や、地震発生に備えた自宅の家具の配置などを問う設問が出された。同小4年の滝川樹君（10）は「とても難しかった。避難の方法などを家族と真剣に考えようと思いましたが」と話した。

検定の結果は来年1月末に発表され、合格者には防災検定協会のバッジが贈られる。